

Title	現代ハルハ口語と文語との発音上の差違に就て
Author(s)	精松, 源一
Citation	大阪外国語大学学報. 6 p.129-p.141
Issue Date	1958-04-01
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80140
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

現代ハルハ口語と文語との発音上の差違に就て

精 松 源 一

On the Enunciatory Difference between the Written and Spoken Forms of Modern Khalka.

Genichi Abematsu

S U M M A R Y

This particular subject has long been studied by scholars both in Japan and abroad, and a few examples were included in A. D. Rudneb's Mongolian Grammar as well as in Professor Shiro Hattori's "Mongolia And Its Language." Erederick Holden Buck's "Comparative Study of Postpositions in Mongolian Dialects and the Written Language" (Harvard-Yenching Institute Studies, XII) treats of this problem on Pages 17 & 18, but only two or three examples are given for each word. Furthermore, the exposition in this work seems to be inaccurate or inadequate in many instances. In the present treatise the author has tried to make corrections as well as provide as many supplementary materials as he could collect, and has drawn his own conclusions. The author's primary aim in presenting this article has been to offer a helpful guide for those who, knowing the old Mongolian letters, wish to transliterate it into the new letters, or vice versa.

この様な題に関する研究は、ずっと以前から 内外学者の 間で研究 発表せられ、ルードネフ の「蒙古文典」にも二三の例を挙げて居り、その他服部四郎先生の「蒙古とその言語」にも少し例が出ている。又1955年に出版された Frederick Holden Buck の Comparative study of postpositions in mongolian diarects and the written language, (Harvard — Yenching institute studies XII) の中にも17,8頁の二頁にわたって発表されているが、夫々の語に就ては二三の例を挙げてゐるに過ぎず、又例外もあるのに、それには触れず、彼の説に首肯し難い点が

あり、誤と思われる点や、足りない所もあるので、本文に於ては、之を是正し補足すると共に、夫々の語に、極力多くの例を集め、独自の結論を出して見た。

ただ本文は、旧古文字を知っている人が新文字に直し、新文字より旧文字に直す場合に役立つようにとの目的から書いたものである。従って音声学的に研究したものではなく、又有名な蒙古語学者の poppe の本を参考にする暇がなかったので、他日それらの本を研究して確固な結論を出したいと思っている。

第一 o 母音と a 母音の間に子音 *r* を挟み、これが口語に於て長母音となる時には、母音調和の法則によって a は o の音になり、又前に o 母音があると次に来る a 母音は同じように o 音になる。例えば、

1. dolo γ a — долОО (七)
2. boro γ a — борОО (雨)
3. to γ a — тоО (数)
4. o γ an — оЛОН (多くの)
5. no γ ai — ноХОЙ (犬)
6. orchilang — орЧЛОН(г) (世界, 宇宙)
7. colong γ a — солонгО (虹)
8. to γ alagu — тоОлох (数える)
9. to γ arai — тоорой (ポプラ, 白楊)
10. bolona — боЛНО (宜しい)
11. qolima γ — холЪмог (混合物)
12. colo γ ai — солгОЙ (左の)

これに就ては多くの学者によって已に明かにされてはいるが、例語が少ないので、茲では出来るだけ多く集めた積りである。

第三 a 母音と u 母音の間に子音 *r* を挟み、これが口語に於て、長母音となる時には *yy* (*uu*) の音になる。例えば

1. ba γ uqu — буух (降りる)
2. sa γ uqu — суух (坐る)
3. ba γ udal — буудал (宿営, 駅)
4. na γ ur — нуур (池, 湖)

5. aɾula—уул (山)
6. qaɾuchin—хуучин (古い)
7. maɾu—муу (悪い)
8. aɾudam—уудам (広い)
9. daɾu—дуу (声, 音, 歌)
10. adaɾu—адуу (馬群)
11. asaɾuqu—асуух (問う)
12. baraɾun—баруун (西)

第三 i 母音と u 又は ü 母音の間に子音 ɾ(g) を挟み、これが口語に於て長母音となる時には、夫々 yy (uu), ɣɣ (üü) の音になる。例えば

1. niɾuqu—нуух (秘す)
2. niɾucha—нууц (秘密)
3. siɾut—шууд (真直に)
4. sigükü—шүүх (裁判す)
5. siɾurɾa—шуурга (吹雪)
6. chiɾulɾan—чуулган (集会)

但し niɾur (顔) は男性語であるので, нуур となる筈であるのに, これを女性に発音し, нүүр と書くのは全く特別な例である。若しこれを нуур と書けば, 文語の naɾur (湖) の意味になる。

なお, 次の語は形は似ているが, 長母音にならないので, 上述の発音と異なったものになっている。例えば

1. siɾum—шүгэм (定規)
2. nigültei—нүгэлтэй (罪の深い)

又, 第二音節に i 母音が来て, 第三音節の母音 u との間に子音 ɾ を挟んでいる。ariɾun (清潔な) や qariɾu (返事, 答) の如きは, 最初の法則に従わず, ариун, хариу となる。然るに又 serigün (涼しい) の如きは сәриун とならずに却って сэрүүн となる。又 F. H. B 氏が歯擦音 s の後に iɾu が来た時には, yy と発音されると書いているが, これは何も歯擦音 s に限らないことは, 1, 2, 6 の例によっても明らかである。

第四 e 母音と ü 母音の間に子音 g を挟み, これが口語に於て, 長母音となる時には ɣɣ (üü) の

音になる。例えば

1. tegükü—түүх (拾う, 集める)
2. segül—сүүл (尾)
3. negüdel—нүүдэл (移住)
4. següder—сүүдэр (蔭)
5. degüü—дүү (弟)
6. egüde—үүд (門)
7. egüle—үүл (雲)
8. xegür—хүүр (屍体)
9. jegün—зүүн (東)
10. jegüdün—зүүдэн (夢)

第五 e 母音と e 母音の間に子音 g を挟み、これが口語に於て長母音となる時には, ээ (ee)

の音になる。例えば

1. begelei—бээлий (親指だけ分れた手袋)
2. kegere—хээр (野原)
3. chegeji—цээж (胸)
4. degere—дээр (上に)
5. degesü—дээс (紐, 縄)
6. tegekü—тээх (積載す)

これは一見して明らかなことで、その例も多いが、今は省略した。

第六 i 母音と e 母音の間に子音 g を挟み、これが口語に於て長母音となる時には, ээ (ee) の

音になる。但し母音調和の法則によって, өө (öö) ともなる。例えば

1. sigesü—шээс (小便)
2. ergiget—эргээд (回転して)
3. bichiget—бичээд (書いて)
4. nijiget—нэжээд (一つ宛)
5. kögiget—хөгжөөд (榮えて, 発達して)

第七 第一音節に e があり、第二か第三の音節に ü の母音があると、初の e 母音は ө (ö) の

音になる。例えば

1. ebül—өвөл (冬)
2. ebügen—өвгөн (老人)
3. ebüdüg—өвдөг (膝)
4. ergükü—өргөх (挙げる)
5. emüsükü—өмсөх (着る)
6. elgükü—өлгөх (吊す)
7. edür—өдөр (日)
8. edüi—өдий (まだ～せぬ)
9. tedüi—төдий (僅に)
10. ebüsü—өвс (草) (一般には ebesü と書く)
11. emüne—өмнө (南前)
12. temür—төмөр (鉄)
13. tegüs—төгс (完全な)
14. ergüdel—өргөдөл (請願書)

以上十四個の例は極力、集めたものであるが、これ等の例を見て分ることは、子音に始まる語が少くて、母音 *e* に始まる語の非常に多いことである。従って *e* 母音に始まり、第二音節が *ü* 母音であれば必ずと云ってよい位に *ө* 母音に直して書けば間違ないと思う。

但し、echüs (終、末) は өчөс と書かずに, эцэс と書き, sedüb (問題) を сөдөв とせずに, сэдэв とし, ebetchin (病氣) は第二音節に *ü* 母音がないのに, これを өвчин と書くのは特別な例と云えよう。

第八 第一音節に *i* があり、第二音節に男性母音 *a*, *o*, *u* の何れかが来ると、第一音節の母音 *i* は夫々 *я* (*ia*), *ё* (*io*) の音になる。例えば

1. kitat—хятад (支那)
2. mingra—мянга (千)
3. imara—ямаа (山羊)
4. ilraburi—ялгавар (区別)
5. niyta—нягт (棉密な)
6. nilqa—нялх (嬰兒)
7. ilara—ялаа (蠅)

8. nimbai—нямбай (精密な)
9. biljuuqai—бязуухай (小鳥)
10. iroɾar—ёроор (底)
11. sira—шар (黄色)
12. sibar—шавар (泥)
13. sitar—шатар (将棋)
14. chidal—чадам (能力)
15. jida—жад (槍)
16. sirqa—шарх (傷)
17. siqam—шахам (近く, 殆んど)

以上挙げた例の中で1より10迄は第一音節の母音が *я*, *ё* に変った例であるが, 11より17迄の語の如く, 子音 *sh*, *ch*, *j* が語頭に来ているものは, 母音の *a*, *o* を附けることによって, シヤ, チヤ, ジャと発音されるので, 第一音節の母音は *я* にならないのである.

なお, *miqa* (肉) の如く二音節より成る短い語で, しかも最後が子音で終わらないものは, *мях* といわずに *max* というているのは例外である.

第九 子音に始まる語で第一音節に *i* 母音があり, 第二音節が *e*, *u*, *ü* 等の母音で終る短い音節の語に在っては, 第一音節の母音 *i* は最後の母音の影響を受けて, その音に変わる. 例えば

1. nige—нэг (一つ)
2. sidü—шүд (齒)
3. nisu—нүс (涕)
4. silüg—шүлэг (詩)
5. chisu—цүс (血)
6. sirü—шүр (珊瑚)
7. silüsü—шүлс (唾)

なお, 第一音節に *i* 母音があり, 第二音節と第三音節の両母音の間に子音 *ɾ* (*g*) を挟んで, これが口語に於て長母音となるような語にあっては, 前の場合と同様に, 第一音節の *i* 母音は変化して最後の音節の母音になる. 例えば

1. niruɾu—нуруу (背)
2. chilaɾu—чулуу (石)

3. sibaɾu—шувуу (小鳥)

但し kiraɾu (霜) は хяруу となる。

第十 語中や語尾に來た buri (büri) は夫々 бар (bar), вэр (ber) となるが、母音調和の法則によって, бор (bor), вөр (bör) ともなる。例えば

1. ilɾaburi—ялгабар (區別)
2. qonjiburi—хонжвор (儲)
3. salaburi—салбар (分岐)
4. üiledbüri—үйлдвэр (生産, 仕事, 工業)
5. tesbüri—тэсвэр (忍耐)
6. jiraburilaqu—зааварлах (命ずる, 指示する)
7. tegüsbüri—төгсвөр (終了, 結果)

但し, 第三の salaburi は b が直接 l に接続するので, 新文字の書法に従って 6 の字に変わったものである。

又 edür büri (毎日) の büri (毎) は独立した意味を持つ語であるので前例に従わず, 必ず бүр (bür) と書かねばならない。即ち edür büri を өдөр бүр と書くのである。

注意 風習の意味である jang aburi の aburi は аварとならずに авир となるのは第20の例に当るものである。

第十一 動詞の語幹が yu (yü) で終る語にあっては, この yu (yü) は й (i) の音になることが分る。例えば

1. ayuqu—айх (恐れる)
2. ɾuyuqu—гүйх (願う, 頼む)
3. güyükü—гүйх (走る)
4. ɾuyuɾchi—гүйгч (請願者)
5. güyüken—гүйхэн (浅い)

この例も少なくて, 辛うじて集めた, 或はまだあるかも知れない。

第十二 語中に來た niya, niye の音は夫々 ниа (nia), нээ (nee) の音になる。例えば

1. qaniyaqu—ханиах (咳をする)
2. qaniyat—ханиад (咳)
3. quniyasu—хүниас (皺)

4. suniyaqu—сүнийах (背伸する)
5. üniye—үнээ (牝牛)
6. iniyekü—инээх (笑う)
7. iniyemsüg—инээмсэг (微笑)

niya, niye を含む語は少いので以上の七つだけを 集めて見た。これ等の例より 考えて niya が ниа となり, niye が нээ となることは間違ないようである。

第十三 語中に來た liya, liye の音は夫々 лиа (lia), лээ (lee) の音になる。例えば

1. aliya—алиа (腕白兒)
2. qaliya—халиа (氷の上に吹出る水)
3. maliyat—малиад (十分である, 相当にある)
4. yaliya ügei—ялиагүй (些細な)
5. buduliyān—будлиан (纏れ, 紛糾)
6. soliya—солио (交換)
7. tüliye—түлээ (薪)
8. küliyekü—хүлээх (待つ)
9. üliyekü—үлээх (吹く)
10. eliye—элээ (鳶の類)
11. neliyet—нэлээд (又は нилээд) (甚だ, 極めて)

以上十一の例より考えると, liya が лиа となり, liye が лээ となることは確である。但し 6 の例は母音調和のためである。しかし, 次の語は以上の法則に当てはまらない例である。即ち, buliyaqu は булиах とならずに булаах (bulaaqu 奪う) となる。

第十四 語中に來た riya は言葉によって риа (ria) となるか或は раа (raa) となり, 又母音調和の法則によって, роо (roo) ともなるが, 女性の riye は必ず рээ (ree) の音になる。例えば

1. yariya—яриа (會話)
2. tariya—тариа (畑, 作物)
3. tariyalaqu—тариалах (耕作する)
4. chaṛuriya—цууриа (反響)
5. qariyaqu—хараах (叱る, 罵る)

6. quriyaqu—хураах (集める)
7. qoriya—хорво (委員会)
8. oriyaqu—орвох (巻く)
9. büriye—бүрээ (喇叭)
10. küriye—хүрээ (僧院, 垣)
11. küriyeleng—хүрээлэн(г) (委員会)
12. küriyelekü—хүрээлэх (縁をとる, 包围する)
13. xeriye—хэрээ (鳥)
14. eriyen—эрээн (斑の, 雑色の)
15. miriyelekü—мирээлэх (斑にす, 汚点で汚す)

以上の外に riya を含む言葉の例外として daʁuriyaqu がある。これは口語では дууриах ともなり, дуурайх (真似る) とも発音される。

第十五 語中に来た kiya, giya は夫々 хиа (hia), гиа (gia) (母音調和の法則によって

хио, гио) となり, kiye は хээ (hee) の音になる。例えば

1. jakiya—захиа (手紙, 命令)
2. takiya—тахиа (雞)
3. nakiya—нахиа (芽)
4. nangkiyat—нанхиад (漢人, 支那人)
5. dokiya—дохио (合図)
6. xonggiya—хонгио (樹木の空洞)
7. dolgiyan—до.лгион (浪)
8. jokiyaqu—зохиох (著述する)
9. chalgiya—цалгиа (河岸, 堤防, 障壁)
10. kelkiye—хэлхээ (連結, 連絡)

第十六 語中に来た siya, siye は夫々 шаа (shaa), шээ (shee) に, 又母音調和の法則に

より, шоо, шөө となる。例えば

1. qasiya—хашаа (垣, 庭)
2. saisiyaqu—сайшаах (褒める)
3. tusiyaqu—тушаах (渡す, 命令する)

4. buruṛusiyaqu—бүрүүшаах (叱責する)
5. tasiyaraq—ташаарах (誤る)
6. maṛusiyaqu—муушаах (誹る, 非難する)
7. qopsiya—хоршоо (協同組合)
8. qongsiyar—хоншоор (獸の鼻柱)
9. qosiyarat—хоншоол (二つ宛)
10. ürüsiyekü—өршөөх (同情する)
11. üsiye—өшөө (復讐, 仇敵)
12. jisiye—жишээ (例)
13. түbegsiyekü—төвөгшөөх (面倒がる)
14. berkesiyel—бэрхшээл (困難)

第十七 語中に來た *chiya*, *chiye* は夫々 *чаа* (*chaa*), *чээ* (*chee*) の音になる。例えば

1. tachiyal—тачаал (色情)
2. tachiyangrui—тачаангуй (色情の, 好色の)
3. kichiyel—хичээл (課)
4. kichiyenggüi—хичээнгүй (勤勉な)

第十八 語中に來た *miya*, *miye* は夫々 *маа* (*maa*), *мээ* (*mee*) の音になる。例えば

1. qamiya—хамаа (關係)
2. namiya—намаа (枝)
3. emiyel—эмеел (恐怖)

なお, *tomiya* が *томёо* となり, *tomiyalal* が *томёо.лол* となるのは, 母音調和の法則によるものである。

miya, *miye* を含む語は仲々少なく以上三つを考えただけである。

第十九 語中に來た *biya*, *biye* は夫々 *баа* (*baa*), *вээ* (*bee*) の音になる。例えば

1. qubiyaqu—хуваах (分ける)
2. qubiyari—хуваар (分け前)

なお, *rabiya* (功績) を *гавьяа* とするのは特別である。

又, *biya* を含む *qabiya* が *хамаа* となり, *qabiyatu* が *хамаат* となっているのは, *b*, *m* の子音は, 何れも唇音であるところから, *b* が *m* に変わったものと思う。これに似た現象は, 文

語で yambar というのを、唇音が二つ続いているので、後の b が取れて、口語では yamar というのと同じで、このような現象は満洲語の中でも見られることである。

第二十 語中及び語尾に來た li, ri の i 母音が前進して発音されることがある。例えば

1. adali—адил (同じ)
2. sandali—сандил (椅子)
3. ularil—улирал (季節)
4. uduridurchi—удирдагч (指導者)
5. abariqu—авирах (登る)

第二十一 名詞の語尾が ng に終り、これに na, ne, no の接尾語を附して出來た動詞は最初の名詞の語尾の n が取れて g のみになる。例えば

1. shangnaqu—шагнах (賞する)
2. chingnaqu—чагнах (聴く)
3. angnaqu—агнах (狩をする)
4. jangnaqu—загнах (どなる, 打つ)
5. xabang—хавагнах (むくむ, 水腫する)
6. killingnekü—хилэгнэх (憤怒する)
7. deleng—дэлэгнэх (出生前に家畜の乳房が膨れる)
8. dalang—далагнах (花壇, 畝を作る)
9. zolbing—золбингох (放浪する)

なお語中に ng を含む名詞が n だけとれて発音されるものがある。例えば manglai を манлай といい, tangnai を тагнай というが如きである。

第二十二 第一音節に e があり、第二音節に i があると、第二音節の母音 i は e の影響を受けて、これに同調するか、又は消滅する。例えば

1. erkim—эрхэм (貴い)
2. erikü—эрэх (探す)
3. ergikü—эргэх (回転する)
4. erike—эрх (珠数)
5. beki—бэх (強い, 丈夫な)

6. bekilekü—бэхлэх (強固にする)
7. eki—эх (始, 源)
8. echige—эцэг (父)
9. elige—элэг (肝臓)
10. ekilekü—эхлэх (始める)

第二十三 語尾に来た rba は pav (rab), rbe は pөв (rөb) となり, 又 rge, rgi, rgü が母音調和の関係により, pэг (reg), pөг (rөг) となり, 又 rma が ram (ram) の音になっていることが分る. しかし, これにも一二の例外があるので断定し難いが, 殆んど間違ない様である. 例えば

1. arba—арав (十)
2. ɣurba—ɣурав (三)
3. dүrbe—дөрөв (四)
4. nirba—нярав (会計係)
5. terge—тэрэг (車)
6. egүрге—үүрэг (荷, 責務)
7. nurma—нурам (熱灰)
8. нүмүрге—нөмрөг (上張り, マント)
9. urma—урам (感興, 靈感)
10. esergү—эсрэг (反して)
11. tesergү—тэсрэг (反対せる)
12. jerge—зэрэг (等級)
13. ergi—эрэг (岸, 断崖)
14. chorba—цоров (子供, 雛鳥)

第二十四 語中に来た ui, үi, oi は夫々 үй, үй, ой と書かれる. 例えば

1. darui—даруй (直ちに)
2. ɣarui—ɣаруй (余り)
3. siɣui—шүгүй (林)
4. oroi—орой (晩)
5. duɣui—дүгүй (車輪, サークル)

6. qarangqui—харанхуй (暗い)
7. mirui—мигуй (猫)
8. doroï—дорой (貧弱な, 愚かな)
9. xichiyenggüilekü—хичээнгүйлэх (謹しむ)

但し, siroi は шорой と書くが, 一般には шороо と書き tedüi は төдүй とならず, төдий と書き, edüi も өдүй とせずに өдий と書き, gedüikü も гөдийх と書かれるのは例外といえよう.

上述の外にまだ挙げるべき例もあるが, それは他日にゆずりたい.